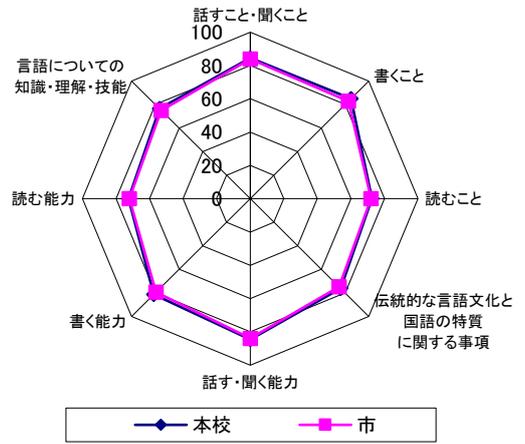


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	84.5	83.9	83.1
	書くこと	85.0	82.9	68.6
	読むこと	72.5	72.0	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.3	74.8	68.7
観点別	話す・聞く能力	84.5	83.9	83.1
	書く能力	81.4	79.3	67.0
	読む能力	72.5	72.0	67.8
	言語についての知識・理解・技能	76.5	75.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

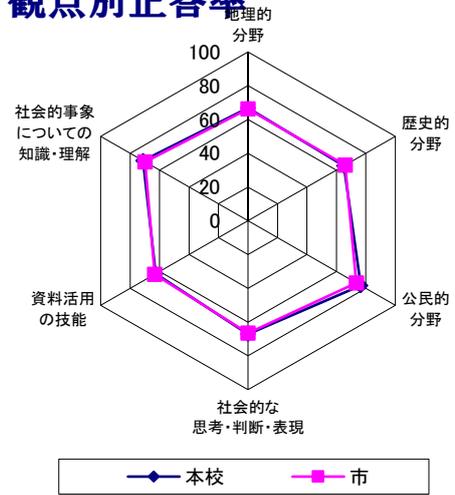
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○全体的には市の平均を上回っている。 ○話の内容を正確に聞き取り、話し手の意見に対して自分の意見を述べるができる。 ●聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることにに関して、やや力不足の面がある。	・定期的に聞き取りテストを行っており、その結果が話の内容を正しく聞き取れるという結果に結びついたと考えられるので、引き続き行っていく。 ・聞き手に理解してもらうためには、どのような工夫が必要か、聞き取りテストだけでなく、授業中発問をすることで、意識させていく。
書くこと	○全体的には市の平均を上回っている。 ○指定された文字数や条件で、自分の立場を明確にして意見をまとめる力がついている。 ●ただし、文章の内容に沿った自分の考えをまとめることに、やや力不足の面がある。	・「書くこと」の授業を充実させたことが成果として出ている。 ・「立場を明確にした二者択一の意見文」や「文章を読んで意見をまとめる意見文」「二つの文章を読んで比べて書く意見文」など、いくつかのパターンを設け、構成を中心に指導している。今後も続けていく。 ・文章のまとめに、「文章の内容に沿った自分の考えを入れるパターン」を設け、授業で扱うようにしていく。
読むこと	○全体的には市の平均を上回っている。 ○文学的文章では、表現の特徴を理解し、展開に即して内容を捉えることができる。 ●説明文の読み取りでは、構成や作者の論理の展開を理解することに関して、力不足な面がある。	・文学作品を扱う授業では、登場人物の心情、場面の展開を捉える時に、伏線や表現の工夫に着目した授業を展開している。その効果が表れていると考えられるので、継続していく。 ・作者の論理の展開に着目する授業を取り入れ、構成についても考えさせるように工夫する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○全体的には市の平均を上回っている。 ○言語事項である文法や歴史的仮名遣いなどの正答率は高くなっている。 ●漢字の読み書きは、やや力不足の面がみられる。また、敬語に関しては理解不足な面がある。	・文法は、授業で説明するだけでなく、テスト前に補足説明をしている。その成果が表れていると考えられるので、継続していく。 ・漢字の読み書きは、補助教材を活用して、家庭学習にも力を入れていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	66.8	66.2	58.0
	歴史的分野	65.1	65.8	60.8
	公民的分野	76.5	73.5	69.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	67.1	66.6	58.6
	資料活用の技能	62.7	63.4	55.9
	社会的事象についての知識・理解	71.2	69.8	64.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

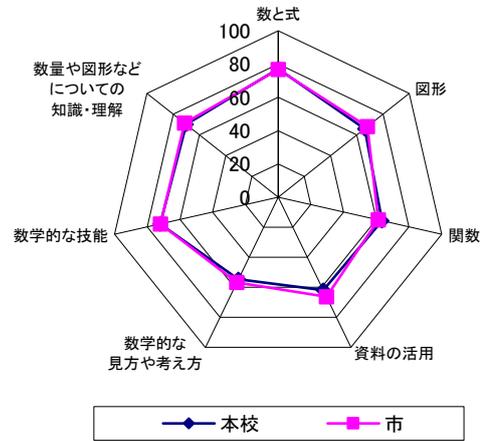
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	全体的には、市の平均を上回っている。 ●特に、北アメリカ州に関する出題と中部地方に関する出題に関しては、市の平均を下回っている。 ○しかし、宮崎平野の農業の特色について資料を読みとって考察し、表現する出題に関しては、市の平均を大きく上回っている。	・社会的思考・判断・表現や社会的事象についての理解は比較体よくできている。 ・北アメリカ州や中部地方の理解を深め、資料を読み取り、考察する学習をしていく必要がある。
歴史的分野	全体的には、市の平均を下回っている。 ●特に、中世の国際関係と都市と農村の自治的な仕組みに関する出題と、江戸時代の政治のしくみに関する出題に関しては、市の平均を下回っている。 ○しかし、現代の戦後の世界に関する出題に関しては、市の平均を大きく上回っている。	・社会的思考・判断・表現や社会的事象についての理解は比較体よくできている。 ・中世と近代の内容についての理解を深め、資料を読み取り、考察する学習をしていく必要がある。
公民的分野	全体的には、市の平均を上回っている。 ●特に、少子高齢化に関する資料の読み取りと対立・合意・効率・公正についての理解、議院内閣制の理解についての出題に関しては、市の平均を下回っている。 ○しかし、人権に関する内容の理解や憲法改正の手続き、法律案の成立する過程や裁判、地方自治における直接請求権の理解に関する出題に関しては、市の平均を大きく上回っている。	・社会的思考・判断・表現や社会的事象についての理解は比較体よくできている。 ・おおむね理解はできているので、資料を読み取り、考察する学習をしていく必要がある。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.1	76.7	72.6
	図形	66.0	68.1	63.8
	関数	63.5	61.2	54.4
	資料の活用	61.9	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	54.7	56.8	50.8
	数学的な技能	72.1	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	70.1	71.4	63.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ○正答率が市の平均をわずかに上回っている。数学的な技能でも上回っているため、計算分野での力がついてきていると考えられる。 ●式の展開については市平均を上回るが、因数分解では市平均を下回っている。また、連立方程式・2次方程式・文章から立式して考える問題も市平均を上回っている。 ●平方根の簡単な計算はできるが、負の平方根の大小や$a\sqrt{b}$の形・分母の有理化が入った問題では市平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、計算技能の向上を図っていく指導が必要である。また方程式に関して解き方の理解と技能を高めていきたい。 ●この領域の基礎・基本の定着を図り、それに基づいて複雑な式になっても粘り強く計算できる技能を身につけさせる指導が必要である。 ●理由を説明する問題に関しては正答率も低いため、ある事象に対して理由を考えたり、書いたりする活動を多き取り入れていく指導が必要である。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均を下回っている。 ○立体の投影図に関する問題・図形の証明を完成させる問題では市平均を上回っている。 ●作図や多角形の角に関する問題・図形の証明を最初からかく問題では、市平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、作図のしかたや証明の流れを理解を高める指導をしていきたい。さらに、作図が正しいことの根拠の説明や図形の性質を記号化して標記することを定着させていきたい。 ●平面図形と空間図形を関連づけて考えたり、図形の性質や条件を使って説明や証明をしたりする場面を多くとり入れた授業の工夫をしていきたい。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均を上回っている。 ○関数に関する問題ではすべて市平均以上である。 ●市平均を上回るものが多いもののグラフから座標を求める問題に関しては、正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数の意味や2つの数量の関係については、引き続きいろいろな事象で変化の割合や関数の式を求める技能を身につける指導が必要である。 ●関数の式を利用してグラフの交点の座標を求める学習を多く取り入れることが大切である。求めるために使うxやyの値の「代入」をしっかり身につけさせる指導も必要である。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均を下回っている。 ●度数分布表の見方や相対度数の求め方に関する問題の正答率が低い。また、資料をみて特徴を読みとり説明する問題の正答率も低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●度数分布表の見方や相対度数の求め方の学習は、1年生の既習事項である。1年の既習事項を生かして2,3年でも他の単元と関連づけて学習ができるような授業の工夫をしたい。 ●実生活に密着した資料を扱うことで普段の生活の中で活用していこうとする力も身につくのではないかな。

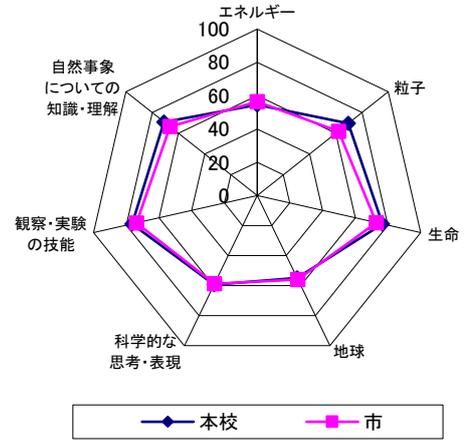
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	54.6	56.4	49.9
	粒子	69.5	62.0	57.4
	生命	76.6	72.9	67.1
	地球	54.8	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	59.3	58.8	52.1
	観察・実験の技能	76.5	73.8	67.6
	自然事象についての知識・理解	71.0	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

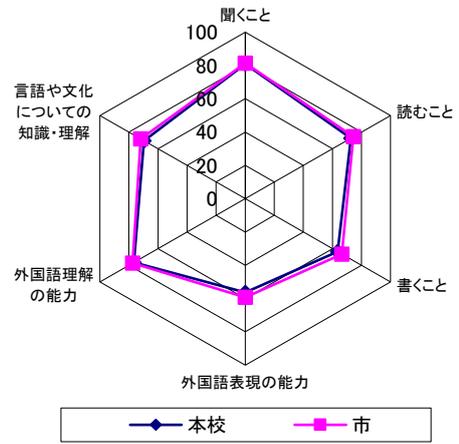
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○エネルギー分野に関して、市の平均を下回るものの、化学的な思考・表現の観点の正答率が上昇している。授業中の話し合い活動や、考察部分を重視し、子供たち自身で考えることをふやした結果だと思ふ。</p> <p>●基礎的な問題や、法則の定義がまだ定着せず、誤答につながっている場合がある。</p>	<p>・基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していくとともに、重要語句をチェックするなどの授業の最初の小テストの実施を行う。</p> <p>・授業で習ったことをその日のうちに復習するよう、課題をだすことで子供たちに知識として定着させる。</p>
粒子	<p>○粒子の分野に関して、市の平均を上回っている。観点別にみると、観察・実験の技能の分野が特に市の平均を上回っている。授業での実験を充実させ、子供たち一人一人が積極的に実験・授業に取り組んだ成果であると思ふ。</p> <p>●質量パーセント濃度などを求める計算問題の正答率が低く、苦手とする場合が多い。</p>	<p>・引き続き、実験の充実を図る。また、班の中でそれぞれ役割分担を設定することで、活動の偏りがないよう配慮する。また、実験の際はワークシートを活用し、実験の手順や方法を振り返りやすいよう配慮する。</p> <p>・まずは基本の計算問題から、生徒の状況に合わせた内容の課題をだし、問題になれることを目的に取り組む。</p>
生命	<p>○生命の分野に関して、市の平均を上回っている。特に、植物の体の特徴やヒトの体のしくみ・構造については高い知識があることが、観点別の正答率から分かる。</p> <p>●対照実験などの、何かと比較しながら正答に導くことを苦手としている。</p>	<p>・生命の単元についての生徒の興味・関心が高いことから、教科書の内容だけでなく、応用分野について取り掛かりやすいものや、基礎・基本の内容を深められるものを取り入れていく。</p> <p>・実験等と比較し、検討することを授業中から取り組み、話し合いをさせる場を設ける。</p>
地球	<p>○地球の分野に関して、市の平均を下回るものの、どの観点においても少しずつ正答率が上昇している。知識の定着を図るべく、ノートやワークシートを用い授業内容をまとめることができたからだと思ふ。</p> <p>●表や図などから、答えを推測することを苦手とする傾向が見られる。</p>	<p>・実験結果を班で共有し、考察するだけでなく個人で考え判断させる時間を設ける。</p> <p>・基本的な読み取りから応用まで、個人に合わせて課題を出せるよう、小テストなどで工夫する。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	80.9	81.4	76.1
	読むこと	72.7	74.4	71.2
	書くこと	63.6	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	56.3	59.3	51.7
	外国語理解の能力	76.6	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	69.6	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均を下回っている。 ○中学2年4月に行ったとちぎっ子学習調査では、平均を大きく下回っていたのだが、現在は市の平均に近づいている。簡単なリスニング問題を行ったり、授業中に英語を聞かせる機会を増やしたことで改善されてきた。 ●単純なものは正答できるのだが、ひっかけの選択肢があるような問題で誤答する生徒が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業で、英語を話したり、聞いたりする活動を増やし、英語に慣れさせる必要がある。 ・自分が発音できない(読めない)単語は、聞き取ることが難しいため、まずは単語や文章を正確に読めるようにドリルやパターンプラクティスを繰り返し行なっていくことに重点を置いていきたい。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均を下回っている。 ○「聞くこと」の内容と同様に中学2年4月時のテストに比べると、平均に近い状況になっている。 ○対話文や、短めの英文の内容を読み取ることについては、比較的正答率が高い。 ●やや長めの文章では、おおまかな内容は理解できるのだが、細かい内容まで理解することが困難な生徒が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、2年時から主語と動詞を見抜くことに重点を置いて指導してきた。そのため、短めの文の内容や文構造は簡単に理解できる生徒が増えてきている。授業では取り扱える英文の量が限られるため、家庭での英語学習が長文を読むということに慣れさせる意味で重要になってくる。家庭での学習の仕方や課題の配付などで、読む英文の量を増やしていきたい。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均を下回っている。 ○「聞くこと」「読むこと」同様に中学2年4月時のテストに比べると、平均に近い状況になっている。 ●しっかりとした文章を書ける生徒と、まったく書けない生徒との差が大きい。 ●文法ミスや単語のスペルミスが目立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の指導においても、主語と動詞で文をつくることに重点を置いてきた。書きたいことは表現できているのに、スペルミスや単純な文法ミスをしてしまう生徒が多く、正答につながっていないため、課題英作文や自由英作文などの添削を行っていくことで、正確な英文を書けるようになっていきたい。 ・また、ほとんど書けていない生徒に対しては、簡単な例文を提示し、それをまねさせて表現力をつけていきたい。